

10. 紺屋遺跡

所在地 長坂町長坂下条

調査原因 県営広域営農団地農道整備事業

調査期間 1998年12月9日～1999年3月11日

調査面積 約300m²

調査主体 長坂町教育委員会

担当者 村松佳幸



紺屋遺跡は日野春小学校から北へ約300m離れたところの、県道茅野・小淵沢・韮崎線（七里岩ライン）の通る台地上に位置する。県道を境にしてすぐ東側に龍角西遺跡があるが、龍角西遺跡は谷を挟んだ2つの台地上に立地し、西側の台地は紺屋遺跡のある台地の東端にあたるため、同じ遺跡と考えられる。今年度は調査対象範囲の西端約300m²を調査し、残りの部分は来年度に調査が予定されている。標高は約660～662mである。

今回の調査では縄文時代の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡3軒、時期不明の竪穴状遺構1基、五輪塔の集中地点2か所、五輪塔の散在地点1か所、墓と考えられる土坑9基、火葬施設あるいは火葬墓と思われる土坑2基、その他の土坑22基、ピット8基、溝1条が発見された。縄文時代の竪穴住居跡は中期中葉に属し、直径約6mである。平安時代の住居跡は10世紀のもので、どれも東壁に竈を作っている。

五輪塔の集中地点、五輪塔の散在地点、墓と考えられる土坑は調査区の西端から発見されている。1号五輪塔集中地点（写真1）はきちんと並べられている様子があり、五輪塔がくずれた後にひとまとめにされた感じである。2号五輪塔集中地点（写真2）も少し並べられた様子があり、その上に灰釉陶器の小皿がお供えされていたかのように乗せられていた。両者ともその真下に墓坑はなく、少しづれたところに墓坑がある。墓坑の上に五輪塔をまとめて置く事例もあるが、本遺跡ではそれとは違い、墓坑を意識せずに五輪塔をまとめたようである。また、18号土坑からは人骨とともにかわらけが2点出土している。時期はかわらけや五輪塔の形態から15～16世紀と考えられる。

県道を挟み本遺跡のすぐ東の龍角西遺跡から15～16世紀と考えられる掘立柱建物跡や竪穴の建物跡が見つかっており、両遺跡は中世集落の居住域と墓域の在り方が検討できる好資料と言えよう。



写真1 第1号五輪塔集中地点



写真2 第2号五輪塔集中地点